

製品安全データシート

最新更新日 平成29年11月10日

1. 製品及び会社情報

製品名	H2アスファリペア	
会社名	株式会社 博有	
住所	〒822 0031 福岡県直方市大字植木 849 1 ADOX別館	
担当部門	本社	
連絡先	TEL 0949 28 7428	FAX 0949 28 7429
整理番号	AR16-06	

2. 危険有害性の要約

OSHA危険性 : なし

GHS分類

物理化学的有害性 : なし

健康に対する有害性

可燃性固体	: 区分外
急性毒性 経口	: 区分外
経皮	: 区分外
吸入	: 区分外
皮膚腐食性/皮膚刺激性	: 分類できない
目への重篤な損傷/眼刺激性	: 区分外
呼吸器もしくは皮膚の感作性	: 区分外
生殖細胞変異原性	: 区分外
発がん性	: 区分外
生殖毒性	: 区分外
特定標的臓器毒性(単回暴露)	: 分類できない
特定標的臓器毒性(反復暴露)	: 分類できない
吸引性呼吸器毒性	: 分類できない
水生環境有害性(急性)	: 分類できない
水生環境有害性(長期間)	: 分類できない
オゾン層への有害性	: 分類できない

GHSラベル要素、注意書き含む

絵文字	: なし
注意喚起語	: なし
危険有害情報	: 皮膚刺激 眼刺激

注意書き

安全対策	<ul style="list-style-type: none">全ての安全注意(SDS等)を読み理解するまで取り扱わないこと。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
予防策	<ul style="list-style-type: none">取扱い後はよく手を洗うこと。粉塵/煙を吸引しないこと。
応急処置	<ul style="list-style-type: none">火災の場合には適切な消火方法を取ること。粉末消化剤、泡消化剤、二酸化炭素。飲み込んだ場合は無理に吐かせず、医師の診断、手当てを受けること。吸入した場合には、空気の新鮮な場所に移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息させること。目に入った場合には、清浄な水で数分間注意深く洗うこと。皮膚に付着した場合には、多量の水と石けんで十分に洗うこと。衣類にかかった場合には、直ちに全ての衣服を脱ぐこと、衣服表面についたものは洗濯などをして取り除くこと。汚染されて保護衣を再使用する場合には洗濯すること。暴露又はその懸念がある場合には、医師の診断、手当てを受けること。眼の刺激が持続する場合には、医師の診断、手当てを受けること。気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。
対応	<ul style="list-style-type: none">眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は医師の診断手当てを受けること。
破棄	内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	: 混合物	
成分及び含有量	: 石油系炭化水素	: 5 - 7%
	: 碎石	: 93 - 95%
化学特性(化学式)	: 特定できない	
危険有害成分	: 特定できない	
化学物質管理促進法	: 非該当	
労働安全衛生法	: 表示対象物(通知対象物)	
毒物劇物取締法	: 対象物でない	
官報公示整理番号		
(化審法・安衛法)	: (9)1700(化審法)、12-137(安衛法)	
CAS No.	: 8052-42-4 8002-13-9	

4. 応急処置

目に入った場合	: 清潔な水で最低15分間目を洗淨した後、直ちに眼科医の手当てを受けること。洗眼の際、まぶたを指で開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行き渡るように洗淨する。
皮膚に付着した場合	: 汚染された衣類・靴などを速やかに脱ぎ、多量の水および石鹼を使用して水で良く洗う。刺激が生じた場合は医師の手当て、診断を受ける。
吸引した場合	: 新鮮な空気のある場所へ移動させ、鼻をかみ、うがいを行う。気分が悪い場合は医師の手当て、診断を受ける。
誤飲した場合	: 無理に吐き出させずに直ちに医師の診断を受ける。
最も重要な徴候および症状に関する簡潔な情報	: 飲み込むと下痢、嘔吐する可能性がある。 眼に入ると炎症をおこす可能性がある。 皮膚に触れると炎症をおこす可能性がある。 ミスト・蒸気を吸引すると気分が悪くなる可能性がある。

5. 火災時の措置

適切な消化剤	: 霧状の消化液、粉末、泡、炭酸ガス消化剤が有効である。
消火方法	: 1.初期の火災には粉末、炭酸ガス消化剤を用いる。 2.大規模火災の際には、泡消化剤を用いて空気を遮断することが有効である。
使ってはならない消化剤	: 棒状の水を用いてはならない。火災を拡大し危険な場合がある。
特定の消火方法	: 1.火元への燃焼源を断つ。 2.周囲の設備等に散水して冷却する。 3.火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	: 作業時には保護具(保護眼鏡、防塵マスク、保護服、ゴム手袋、ゴム長靴等)を着用する。
環境に対する注意事項	: 1.周辺の着火源を取り除く。 2.飛散しないように注意し、掃き集め回収する。 3.付着したものは、ウエス等で拭き取る。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意	: 1.炎、火花、又は、高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発生させない。 2.皮膚に触れたり、目に入る可能性がある場合には、保護具を着用する。
保管上の注意	: 1.直射日光をさけ、換気の良い場所に保管する。 2.熱、スパーク、火災並びに静電気蓄積を避ける。

8. 曝露防止及び保護装置

設備対策	: ミストおよび蒸気が発生する場合は、発生源の密閉化または防爆タイプの排気装置を設ける。取り扱い居場所の近辺に洗眼および身体洗淨のための設備を設ける。
許容濃度 管理濃度	: アスファルトとしては設定されていない 労安法 作業環境管理濃度 硫化水素として1ppm
許容濃度	: 日本産業衛生学会(2004年度版)勧告なし
設備対策	: 硫化水素として5ppm 一酸化炭素として50ppm 時間加重平均 TWA0.5mg/m ³ (鉱油ミストとして) 短時間暴露限界 勧告なし 硫化水素として5ppm
保護具	
呼吸器の保護具	: ミスト・蒸気が発生する場合は、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。密閉された場所では、送気マスクを着用する。
手の保護具	: 耐油性(不浸透性)の保護手袋を着用する。
目の保護具	: 飛沫が飛ぶ場合は、普通眼鏡型かゴーグル型を着用する。

皮膚及び身体の保護	: 耐油性、静電防止性の長袖作業着、安全靴を着用する。油で濡れた衣服は脱ぎ、完全に清浄してから使用する。
適切な衛生対策	: 作業中は飲食、喫煙を行わない。休憩場所には、手洗い、洗眼などの設備を設け、取扱い後には手や顔などをよく洗浄する。また、休憩場所には手袋などの汚染された保護具を持ち込まないようにする。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態	: 固体
形状	: 粒状
色	: 黒色
臭気	: わずかな臭気
PH	: 該当しない
引火点、沸点	: 約250 (COC)
融点	: 0 以上(流動点)
凝固点	: 認められない
爆発特性 爆発限界	: 下限:1.0容量% 上限:7.0容量%
比重	: 1.8
水に対する溶解性	: 認められない(不溶性)
密度	: 0.99g/cm ³ (15)以上
揮発性	: 認められない

10. 安定性及び反応性

安定性	: 常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
反応性	: 強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	: ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないように注意する。
危険有害な分解生成物	: 燃焼の際は、煙、一酸化炭素などが発生する可能性がある。
その他	: 現在のところ有用な情報なし。

11. 有害性情報

急性毒性	: 減圧蒸留残渣油 経口 ラット LD50 7400mg/kg以上(rst) (推定値)
局所効果	: 液は、目、皮膚と粘膜に刺激を与える。
慢性毒性	: 現在のところ有用な情報なし。
がん原性	: OSHAでは「IARCグループ3(人の対して発がん性について分類できない)」に分類している原料を使用。EUでは「発がん性物質としての分類は適用される必要はない」に評価されている。
呼吸器感作性	: 現在のところ有用な情報なし。
変異原性	: 現在のところ有用な情報なし。
生殖毒性	: 現在のところ有用な情報なし。
催奇形性	: 現在のところ有用な情報なし。
その他	: 製品は、通常温度で使用するが、高温時に発生するガスを吸引すると嘔吐及び目眩を起こすことがある。

12. 環境影響情報

生態毒性	: データなし
残留性・分解性	: データなし
生態蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層有害性	: データなし
その他の注意事項	: 海洋生物、鳥などが摂取することを防止するため、いかなる海洋や水域でも投棄、放出してはならない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 本製品を廃棄する場合には、量の多少にかかわらず「廃棄物の処理および清掃に関する法律(廃棄物処理法)」および各自治体の条例に従って処理すること。
-------	---

汚染容器・包装 : 容器・包装を廃棄する場合には、量の多少にかかわらず「廃棄物の処理および清掃に関する法律(廃棄物処理法)」および各自治体の条例に従って処理すること。

14. 輸送上の注意

国際規約 : 該当しない。
国内分類 : 国連の定義による危険物に該当しない。
国連番号 : 該当しない。
国内規制 : 消防法・毒物及び劇物取締法・高圧ガス保安法・船舶安全法・港則法航空法等のいずれにも該当しない。
安全対策 : 包装資材の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。
荷崩れの防止を行い直射日光や雨水を避けること。

15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTTR法)
: 該当しない
毒物劇物取締法 : 該当しない
労働安全衛生法 : 該当しない
廃棄物の処理および清掃に関する法律
: 産業廃棄物
水質汚濁防止法 : 油分排出規制、ノルマルヘキサン抽出分として検出される。
下水道法 : 鉱油類排出規制
道路法 : 危険物に該当しない
船舶安全法、危険物船舶運送及び貯蔵規制
: 危険物に該当しない
航空法 : 危険物に該当しない

16. その他の情報

引用文献 文献1. ANSI Z 129.1-1994 American National Standards Institute. (米国規格協会)
文献2. 絵で見る中毒110番(保健同人社)
文献3. 許容濃度の勧告(2004) 日本産業衛生学会 産業衛生学会誌 別冊
文献4. Thresholds Limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices, ACGIH(2004)
文献5. IARC MONOGRAPHS ON THE EVALUATION OF THE CARCINOGENIC RISK OF CHEMICALS TO HUMANS VOLUME 33
文献6. EC委員会指令「67/548/EEC」の付属書 「危険な物質リスト」
文献7. 製品安全データシートの作成指針(改訂版)(日本科学工業協会)

記載内容の取扱い : 記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保障するものではありません。
なお、新しい知見により訂正されることがあります。
: 危険、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意してください。
: SDSの注意事項は、通常の使用条件において適用されるものです。特殊な取扱いをされる場合は、ご使用者の責任において安全対策を実施してください。